

第5回PD 諮問委員会 議事要旨

1. 日時： 平成18年11月20日（月） 17:30 ～ 19:10

2. 場所： （社）日本非破壊検査協会 B・C 会議室

3. 議題：

3.1 委員交代の件

3.2 PD 資格試験機関/PD 試験センター事項（説明者：（財）電力中央研究所 PD センター）

3.3 PD 認証機関事項（説明者：（社）日本非破壊検査協会 PD 認証機関）

3.4 PD 研修センター事項

（説明者：（財）発電設備技術検査協会 溶接・非破壊検査技術センター PD 研修センター）

（説明者：（財）電子科学研究所 PD 研修センター）

3.5 その他

4. 出席者（委員）

宮委員長、小林副委員長、阿久津委員、河野委員（三原田委員の代理）、庄子委員、前原委員

5. 議事概要

5.1 委員交代の件

宮委員長から、原子力安全・保安院の青木委員の後任に、山田委員がなったことの紹介があった。また、原子力安全基盤機構の三原田委員の代理としての河野氏の出席につき、委員長が了解した旨の説明があり、委員会としても承認した。

5.2 PD 資格試験機関/PD 試験センター事項

(1) 電力中央研究所から第2期PD 資格試験の結果が報告され、その後、次の議論がなされた。

(2) 受験資格について

・日本非破壊検査協会（JSNDI）から、追加配付資料「PD 認証における受験資格について」を基に次の意見が出された。

＊雇用者認証の受験者の受験資格については、ASME の審査がなされていることと、雇用関係が続いているという前提で認証審査をしてきた。しかし、雇用関係が無い人も受験しているが、この場合、受験資格はないと判断している。

＊受験資格等の疑問点については、電力中央研究所から JSNDI に事前に相談して欲しい。

・これに対する議論の後、PDI 資格保有者の扱いは、雇用関係があるかどうかは別として、受験資格ありとした。また、今後はPDI 資格の証明をつけてもらうこととした。

・今後受験資格をどうするかについては、JSNDI で検討後、再度 PD 諮問委員会で議論して決めることとした。

この JSNDI での検討の前提として次の意見が出された。

＊日本は、米国の原子力の実態を反映させて後追いで PD 制度を作ったが、今後の PD の国際相互承認を踏まえて受験資格をどうするかを検討すべきである。

＊国際的に見て納得のいくものであるべきであり、海外と協調すべきところはすべきて、海外資格者を一方的に締め出すことをしないで欲しい。

＊今後、アジア・欧州諸国からの申請者をどうすべきかも議論に入れて欲しい。

5.3 PD 認証機関事項

事務局から、PD 認証審査結果の報告があった。

5.4 PD 研修センター事項

- ・発電設備技術検査協会 PD 研修センターから、別紙資料により再試験用 PD 研修実施結果の報告がなされた。その後、次の議論があった。
- ・委員より、手順書によって試験の結果が変わるのではないかとの意見が出されたが、手順書は企業等が作るもので PD 研修センターでは変えられないが、手順書の内容はしっかりしているとの説明があった。
- ・PD 研修の PR をしているかとの質問があり、まだやっていないとの回答があった。これに対して今後研修結果も含め PR していくべきであり、再試験のみでなく、新規試験でも PD 研修を受けるように PR したらとの意見が出された。

5.5 その他

- ・事務局から、第1回 PD スキーム委員会が11月15日に開催され、構成委員、役割、WG 設置等が決まったことの報告をした。

以上